

堺 アルフォンス・ミュシャ館 企画展「ミュシャが夢見たハーモニー」を開催します

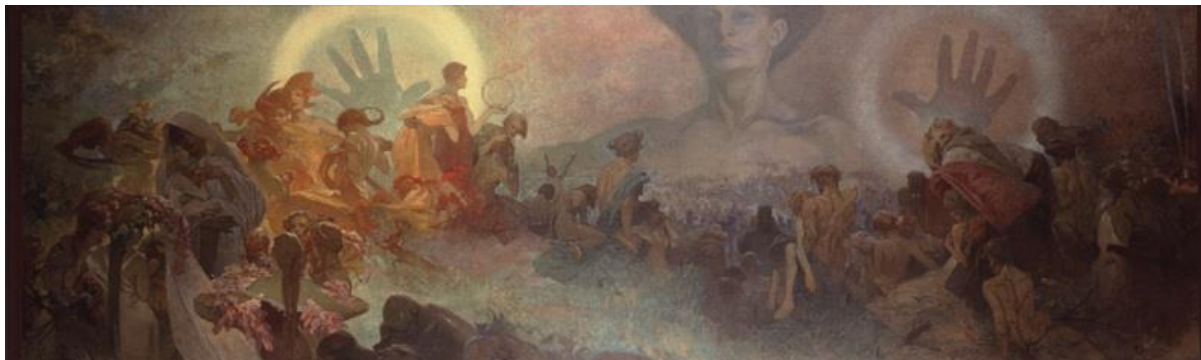
堺 アルフォンス・ミュシャ館では、企画展「ミュシャが夢見たハーモニー」を以下のとおり開催します。

本展では、堺 アルフォンス・ミュシャ館が所蔵する代表的な作品・大型油彩画《ハーモニー》を中心に、数々の作品に共通するモチーフや構図を読み解きながら、ミュシャが作品を通じて人々に伝えようとした想いを探ることで、「調和」をテーマとしたミュシャの芸術家としての新しい一面を紹介します。

1 企画展概要

展覧会名	企画展「ミュシャが夢見たハーモニー」
日時	令和 7 年 12 月 6 日（土）～令和 8 年 3 月 29 日（日） 午前 9 時 30 分～午後 5 時 15 分（入館は午後 4 時 30 分まで）
休館日	月曜日、年末年始、休日の翌平日（ただし、1 月 12 日（月・祝）、2 月 9 日（月）、 2 月 12 日（木）、2 月 23 日（月・祝）は開館） ※詳細は、別紙をご覧ください。
場所	堺 アルフォンス・ミュシャ館（堺市立文化館） （堺市堺区田出井町 1-2-200 ベルマージュ堺式番館） JR 阪和線「堺市」駅より西へ約 250m
観覧料	一般 510 円（410 円）、高校・大学生 310 円（250 円）、小・中学生 100 円（80 円） ※（ ）は 20 人以上 100 人未満の団体料金

※見どころや展示構成、関連イベントなどの詳細は、別紙をご覧ください。



アルフォンス・ミュシャ《ハーモニー》

1908 年 油彩、カンヴァス 堺 アルフォンス・ミュシャ館（堺市）蔵

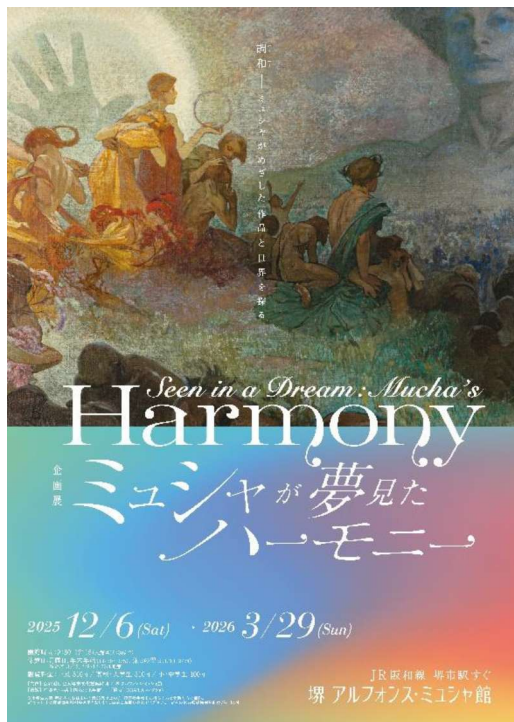
2 アルフォンス・ミュシャ

- ・19 世紀末のパリで一躍人気のポスター作家として才能を開花させたアルフォンス・ミュシャ（1860-1939）は、芸術様式アール・ヌーヴォーを代表する画家として広く知られています。
- ・ミュシャのポスター作家としての成功は、稀代の女優サラ・ベルナール（1844-1923）との出会いにより、彼の名がパリ中に広まったことがきっかけです。
- ・1900 年のパリ万国博覧会への出展を経て、後年には祖国チェコへの芸術的貢献を願い、大連作《スラヴ叙事詩》をはじめ、チェコの独立と平和を願った油彩画などを制作しました。

3 堺市とミュシャの関係

- ・堺 アルフォンス・ミュシャ館が所蔵するミュシャとその関連作家の作品約 520 点は株式会社ドイの創業者、土居君雄氏（1926-1990）の収集を基にしたものです。土居氏の没後に遺族によって堺市に寄贈されました。
- ・コレクションは、ミュシャのポスターや油彩画、素描や宝飾品など、世界有数を誇る体系的な作品で構成されています。
- ・堺 アルフォンス・ミュシャ館では、ミュシャの初期から晩年期にまでわたる作品を展示し、様々なテーマでその創作活動を紹介しています。

問 い 合 わ せ 先	（企画展に関すること） 担 当：公益財団法人堺市文化振興財団 堺 アルフォンス・ミュシャ館（堺市立文化館） 電 話：072-222-7227 ファックス：072-222-6116
	（本市の文化振興に関すること） 担 当 課：文化観光局 文化国際部 文化課 電 話：072-228-7143 ファックス：072-228-8174



Seen in a Dream: Mucha's Harmony

企画展 ミュシャが夢見た
ハーモニー

2025年12月6日（土）－ 2026年3月29日（日）

ハーモニー

調和－ミュシャがめざした作品と世界を探る

概要

音、色、人と自然…世の中には様々な「調和」の要素があり、これらは人々に心地よさを与え、より良い世界を実現するための概念でもあります。華やかで優雅な女性像のポスターを描く画家として有名なミュシャですが、生涯に渡って人々の幸福を願って数多くの作品を描きました。それは祖国チェコとスラヴ民族のために描いた晩年の大作《スラヴ叙事詩》にとどまりません。経済的な成功だけに満足しなかったミュシャは、たとえ商業的な作品であっても広く民衆が楽しめる芸術をめざしました。本展は当館を代表する大型油彩画《ハーモニー》(1908年、縦横約1.5m×4.5m)を中心に、コレクションから厳選した数々の作品に共通するモチーフや構図を読み解きながら、彼が作品を通じて人々に伝えようとした想いを探ります。「調和」をテーマとしたミュシャの芸術家としての新しい一面をご紹介します。

展覧会名 企画展「ミュシャが夢見たハーモニー」

会期 2025年12月6日（土）から2026年3月29日（日）まで

会場 堺 アルフォンス・ミュシャ館（堺市立文化館）

開館時間 午前9時30分から午後5時15分（入館は午後4時30分まで）

休館日 月曜日、年末年始（12月29日～1月5日）、休日の翌日（1月13日・2月24日）
*ただし、1月12日・2月9日・2月12日・2月23日は開館

観覧料 一般510円(410円)、高校・大学生310円(250円)、小・中学生100円(80円)
*()は20人以上100人未満の団体料金

主催 公益財団法人堺市文化振興財団/堺 アルフォンス・ミュシャ館

後援 在堺チェコ共和国名誉領事館

協力 OGATAコレクション

みどころ

- ①ミュシャの大型油彩画《ハーモニー》にスポットをあてる初めての、日本で唯一のミュシャ専門美術館である当館だけの展覧会
- ②当館でしか見られない作品を含む、ミュシャの画業初期から晩年までの多様なジャンルの作品を紹介
- ③ポスターや《スラヴ叙事詩》にとどまらない画家ミュシャの新たな一面を再発見できる

展示構成

第1章 円のモチーフ

女性を女神のように見せる円環のモチーフ。ポスターや装飾パネルで頻繁に用いられたこのモチーフは、後にスラヴ民族の連帯を象徴ようになります。画業初期のパリから後の時代へと変遷するモチーフの使い方に注目します。

第2章 めざす場所 — 巨大な人物と向かい合う人々

幼い頃から教会やその美術に親しんでいたミュシャ。彼は生涯に渡ってキリスト教に関わる作品を手がけました。その中でよく描かれた「巨大な人物と向かい合う人々」の構図を取り入れた作品や、キリスト教に関わる作品の数々をご紹介します。

第3章 色彩と構図の調和

近代化した19世紀ヨーロッパでは政治や科学、芸術など様々な分野で「調和」の概念が注目されました。それは同時代の画家たちの作品にも反映されました。ミュシャのデザイン理論を元に、彼がめざした「調和」のとれた作品の数々をご紹介します。

第4章 ハーモニー

《ハーモニー》と本作が展示される予定だったニューヨークの劇場に関連する作品をご紹介します。これまでの章で見た作品を元に本作のモチーフや構図、色彩などに注目し、ミュシャが本作に込めた想いを探ります。

第5章 みんなの、そしてスラヴのために

ミュシャはパリ時代にデザイナーとして活躍している頃から、広く民衆のために芸術で貢献することを望んでいました。後半生の祖国チェコとスラヴ民族のために制作した作品を中心に、彼が人々の幸福を願って描いた作品をふりかえります。

関連
イベント

※イベントの参加には、本展会期中の観覧券（半券可）の提示が必要です。

【1】学芸員によるスライドトーク

展覧会の見どころをスライドで解説します。

日 時：12月27日（土）、1月17日（土）、3月7日（土）各日14：00～（開場13:45）

定 員：50名（申込不要、当日先着順）

対 象：どなたでも

参加費：無料

【2】ミュシャのデザインカードをつくろう

ミュシャのモチーフシールを貼ってオリジナルポストカードを作ります。

日 時：12月13日（土）、1月11日（日）、2月23日（月・祝）

各日11：00～15：00（随時ご案内、お待ちいただく場合がございます。）

対 象：どなたでも（申込不要、小学3年生未満は保護者同伴要）

材料費：300円（現金のみ）

※イベント詳細については当館HPでご確認ください。

